

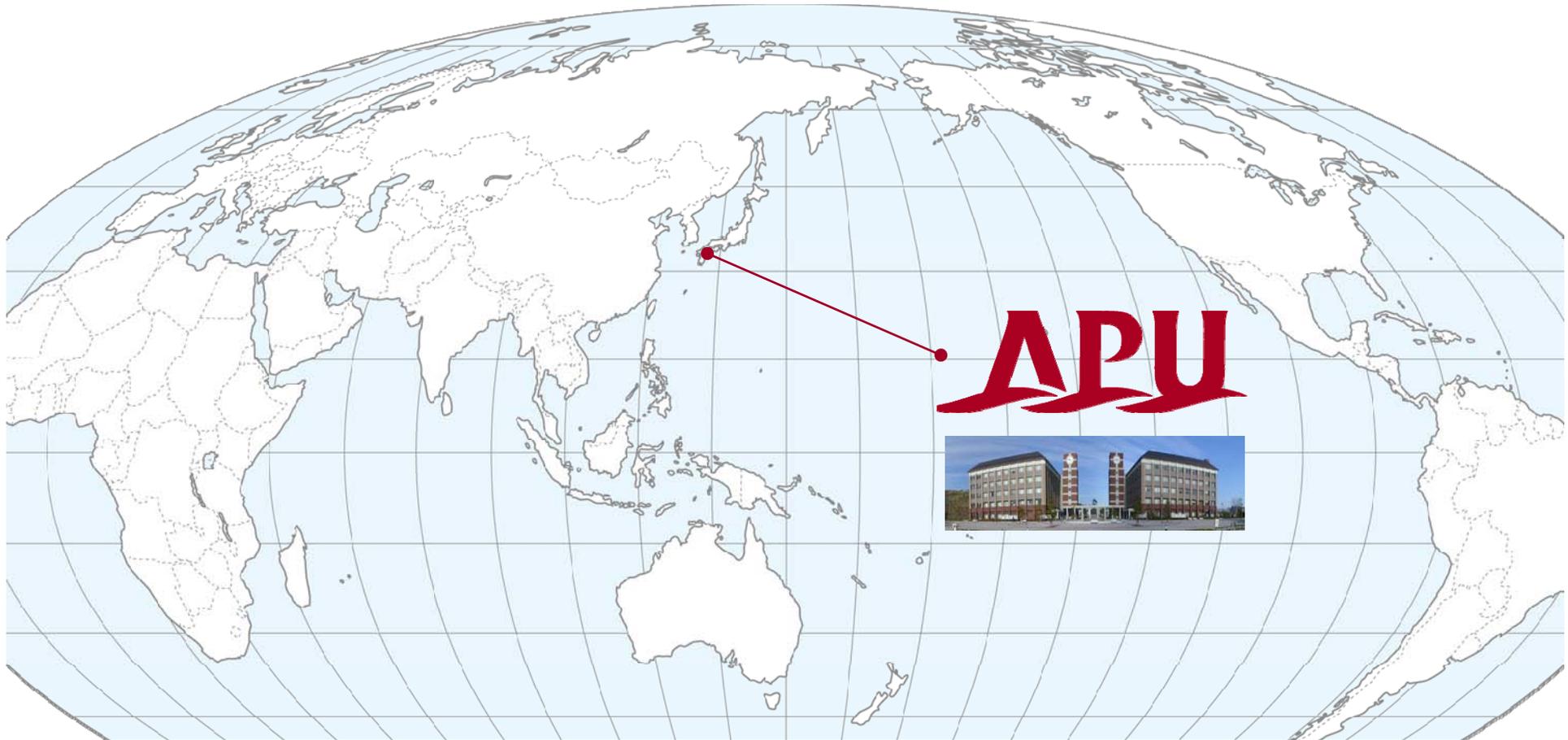
APUの10年、次なる10年

立命館アジア太平洋大学
学長 是永 駿

Ritsumeikan

Asia Pacific University

基本情報



- 大学名 立命館アジア太平洋大学
Ritsumeikan Asia Pacific University
- 所在地 〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1
- 開学 2000年4月
- 設置者 学校法人 立命館
※大分県、別府市との公私協力による

- 学生数 5,555名
(2012年11月1日、大学院生、非正規生含む)
- 教員数 167名(2012年4月1日、専任のみ)
- 職員数 119名(2012年4月1日)

自由・平和・ヒューマニズム 国際相互理解 アジア太平洋の未来創造

立命館アジア太平洋大学開学宣言

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。
人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマニズムの実現を求め、
望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、
人間の諸活動は地球的規模で展開されるに至った。
また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、
平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、
アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。
この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために
立命館アジア太平洋大学を設立する。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、
2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。
世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、
相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、
立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

2000年4月1日

多文化共生型キャンパス

世界

80

カ国・地域からの

国際学生2,400名と国内学生3,000名 合計5,555名が学ぶ国際大学

(2012年11月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

■国際学生の出身国・地域

- 2012年秋在籍学生の出身国・地域 81
- 開学以来、国際学生が在籍したことのある国・地域 49

■「大学ランキング2013年版」の評価 (朝日新聞出版)

■外国人留学生総数&比率(2011年度)

外国人留学生総数 1位 2,445人

外国人留学生比率 5位 43.0%

※正規留学生。聴講生、研究生、交換留学生は含まない

■外国人講師総数&比率(2011年度)

外国人講師総数 8位 69人

外国人講師比率 3位 46.0%

※総数は常勤の教授、准教授、講師の合計



学部・大学院

アジア太平洋学部

College of
Asia Pacific Studies
(APS)

入学定員 600名

英語・日本語を徹底的に鍛える言語教育

学部は日英二言語、大学院は英語のみで開講

半数を占める外国籍教員から世界の「いま」を学ぶ

国際経営学部

College of
International Management
(APM)

入学定員 600名

学部

環境・開発コース

持続可能な社会をめざして、国際開発協力のありべき方向性を探求する

国際関係コース

アジア太平洋地域未来に向け、戦略マインドとリーダーシップを育てる

観光学コース

国際基準の「もてなしの心」を学び、観光産業を通じた地域発展を考える

文化・社会・メディアコース

社会を多角的に捉え、アジア太平洋地域の諸問題の理解を深める



会計・ファイナンスコース

企業活動におけるお金の流れを把握し、資金の調達・運用知識を身につける

経営戦略と組織コース

ビジョンや行動原理の視点から、組織の持続的発展を導く経営戦略を考える

マーケティングコース

価値の高いモノやサービスを効果的な提供する方法を探る

イノベーション・経済学コース

企業発展をもたらすイノベーションと、効率のよい生産管理を学ぶ

大学院

アジア太平洋研究科 修士課程

入学定員 60名

経営管理研究科 (修士)

入学定員 40名

アジア太平洋研究科 博士課程

入学定員 10名

国際通用性のある教育システム

学生をしっかり学ばせる教育システム

春・秋の2回入学とクォーター制の採用

- 開学以来、春と秋、年2回の入学・卒業を実施
- クォーター制(1クォーター=2カ月)と semester 制の併用により、柔軟な学習スケジュールが可能
- 集中的な学び(同一科目週2回)で学習の節目・山場が頻繁に

日英二言語教育 ※学部のみ

- 「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ
- 習熟別クラスと少人数授業で徹底的に鍛える言語教育
- 多文化キャンパスのいたるところで鍛えられる言語運用能力
- 授業ではプレゼンテーションやディスカッションを多用

体系的なカリキュラムと国際基準の成績管理

- 科目レベルと履修の順次性を示す科目ナンバリング
- 5段階評価とGPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理
- 期末試験は成績の50%以下、日々の学習や授業参画状況も評価
- 海外の大学で採用されているUMAP単位互換方式(UTCS)を採用

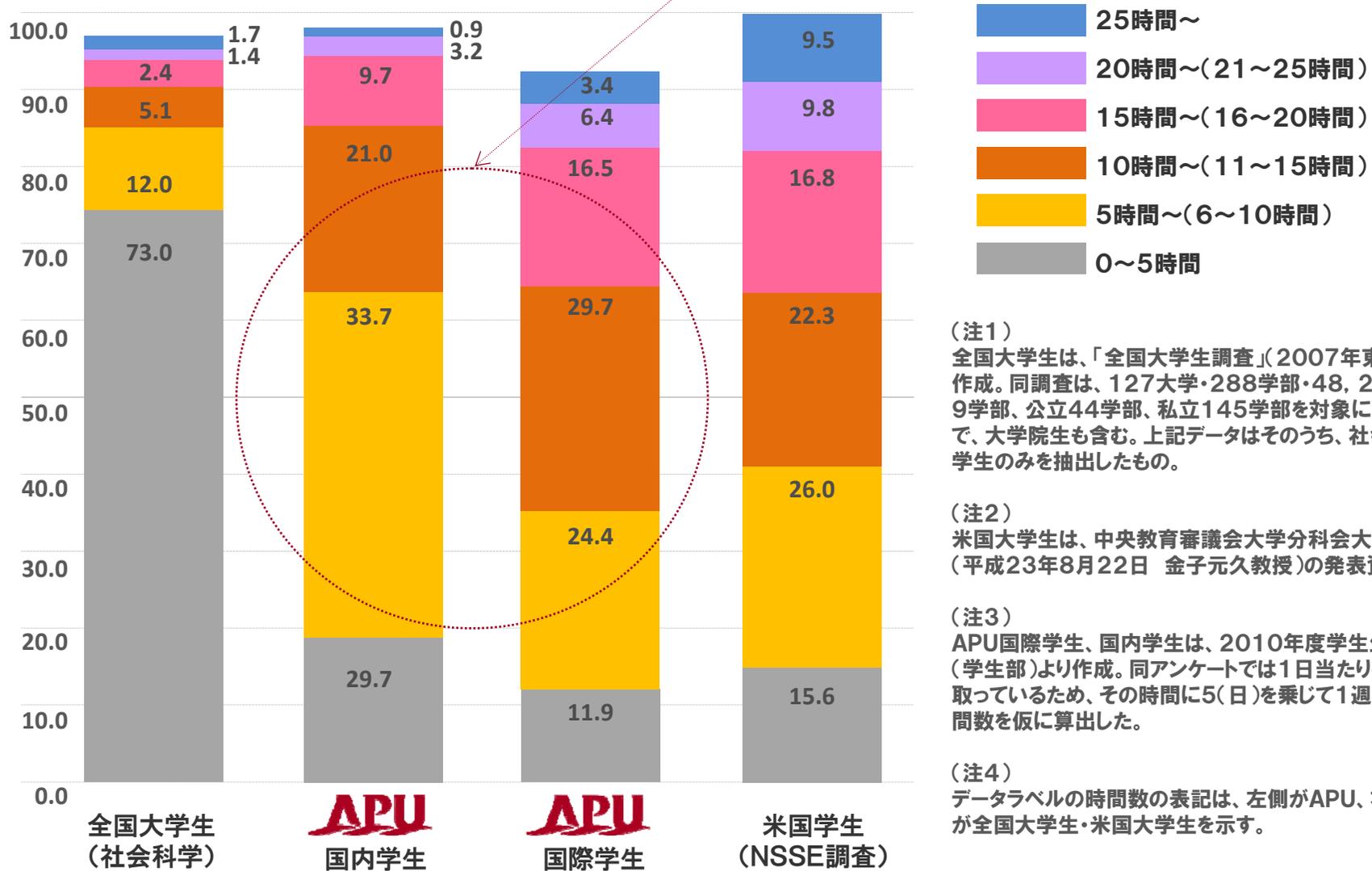
協調学習システム

- 学生が学びあう環境、文化
- 多様な学生スタッフが大学運営や教育活動に参画
- 言語自主学习センター「SALC」で学生同士が教えあう
- ラーニング・コモンズで活発なグループワーク



授業時間以外の学習時間の比較（1週間当たり）

全国大学生平均に比べて圧倒的に多い学習時間



(注1)
全国大学生は、「全国大学生調査」(2007年東京大学)より作成。同調査は、127大学・288学部・48,233名。国立99学部、公立44学部、私立145学部を対象に実施したもので、大学院生も含む。上記データはそのうち、社会科学分野の学生のみを抽出したもの。

(注2)
米国大学生は、中央教育審議会大学分科会大学教育部会(平成23年8月22日 金子元久教授)の発表資料より作成。

(注3)
APU国際学生、国内学生は、2010年度学生生活アンケート(学生部)より作成。同アンケートでは1日当たりの学習時間を取っているため、その時間に5(日)を乗じて1週間当たりの時間数を仮に算出した。

(注4)
データラベルの時間数の表記は、左側がAPU、右側の()内が全国大学生・米国大学生を示す。

多彩なアクティブ・ラーニング

国内・外、短期・長期と多様なプログラム
日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

異文化を体験する



FIRST (1回生向け異文化体験学習プログラム)
言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム

言語運用能力を高める



言語イマージョン (海外言語集中研修)
海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習

専門を学ぶ



交換留学・共同学位プログラム
交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



フィールド・スタディ (専門分野調査研究型プログラム)
専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を行う

国際学生寮 APハウス

違いを知る。認める。そのうえで課題についてとことん話し合い、「解決策」を導き出す力を育む

互いの生活習慣や 価値観の違いを知る



- シェアルームは日本人学生と国際学生のペア
- 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる

ともに暮らすための ルールを作り、運営する

- RA(レジデント・アシスタント)が寮生を24時間サポート
- 各種イベントの企画・運営
- フロアを巡回、ゴミ分別チェック



56カ国・地域 **1184**人がともに暮らす
2011年10月現在



学び合い、 助け合う心を養う



- 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- 授業やレポートの教え合い・学び合い
- 毎週フロアミーティングを実施

イベントを通じて 交流を深める

- フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- 各国の文化を紹介する企画
- 日本の名所を巡るバスツアーなどを開催
- 世界祭(寮祭)の実施



個室932室+シェアルーム189室=1,310名 収容可能

国際ボランティア・地域交流

国際ボランティア : 現地で、現地の人とともに、現地が抱える問題の解決に取り組む

戦争や紛争で傷ついた子ども達に治療の機会を提供

途上国の住環境改善をめざして住宅建設サポート



[団体名]
Peace×Piece
[活動地域]
ドイツ など



[団体名]
ハビタットAPU
[活動地域]
ネパール、タイなど

地域交流 : 日本や地域の文化に対する理解を深めるとともに、地域の活性化に貢献

地域のお祭りや行事への参加、市民講座などでの異文化交流を通じて、地域社会とともに成長する



就職実績

国を越えるコミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

国内学生 ▶グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶日本企業 or 母国へ

就職内定率

95.1%

一部上場企業の割合

約36%

主な内定先企業・団体

- 旭化成(株)●(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ●オムロン(株)●(株)資生堂
- 積水ハウス(株)●(株)セブン・イレブン・ジャパン●全日本空輸(株)／ANA●武田薬品工業(株)●(株)東芝●東レ(株)●西日本鉄道(株)／JR西日本●日本電気(株)／NEC●日本放送協会／NHK●日本サムスン(株)●日本生命保険相互会社●パナソニック(株)●(株)日立製作所
- (株)ファーストリテイリング●富士ゼロックス(株)●富士通(株)●(株)三井住友銀行●三井物産(株)●三菱商事(株)●(株)三菱UFJ東京銀行
- ヤマト運輸(株)●(株)楽天●(株)リコー●(株)ローソンなど

2011年度 就職状況

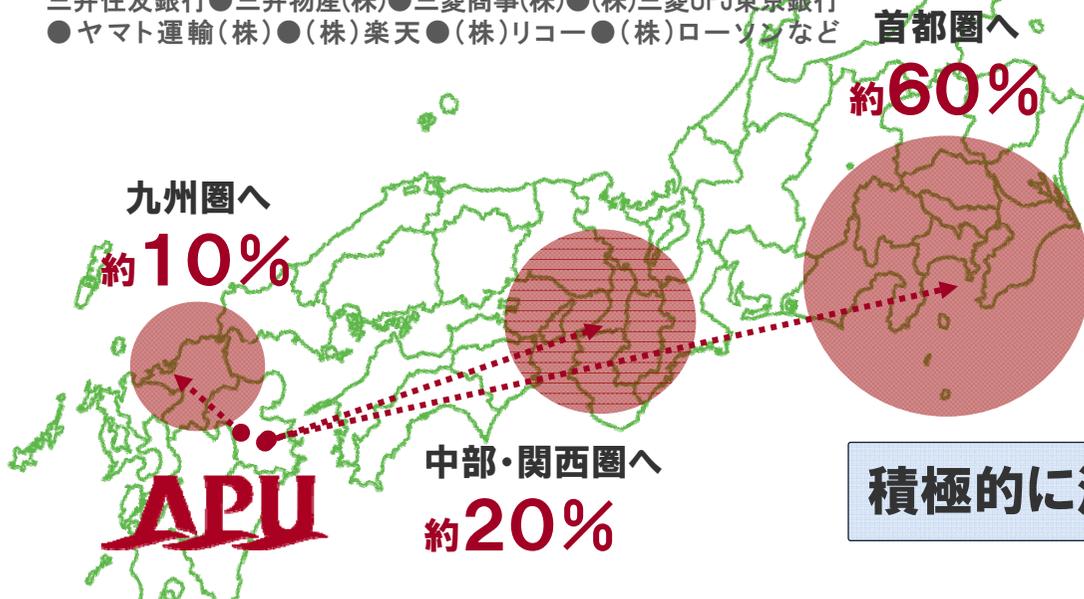
(2011年3月31日現在／内定率=内定報告者／就職希望者)

属性	内訳	男子	女子	計
全体	就職希望者	427	456	883
	内定報告者	407	433	840
	内定率	98.2%	95.0%	95.1%
国内学生	就職希望者	277	278	555
	内定報告者	262	271	533
	内定率	94.6%	97.5%	96.0%
国際学生	就職希望者	150	178	328
	内定報告者	145	162	307
	内定率	96.7%	91.0%	93.6%

[国際学生の就職動向・特徴]

- 日本で就職 300～350名(約半数)
- 母国・第三国で就職 100～150名
- 卒業後に現地で就職活動→3～6カ月で採用・入社
- 国内・海外大学院進学 100～150名

積極的に海外展開を行う製造業で高い就職率



国を越えるコミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

日本経済新聞 (2012年07月16日朝刊)

企業人事トップが
「人材育成で注目している大学」
ランキングで第3位。

順位	大学名	回答企業数
1	国際教養大学	35
2	東京大学	13
3	立命館アジア太平洋大学	10
4	早稲田大学	9
5	慶応義塾大学	7
6	立命館大学	5
7	大阪大学	3
7	金沢工業大学	3
7	京都大学	3
7	一橋大学	3

PRESIDENT (2012 10.15号)

「人事部の評価が抜群に高い大学」
8大学

- ①立命館アジア太平洋大学
- ②国際教養大学
- ③早稲田大学
- ④国際大学・国際経営学研究科
- ⑤慶応義塾大学
湘南藤沢キャンパス・SFC
- ⑥立教大学経営学部
- ⑦金沢工業大学
- ⑧豊田工業大学



安倍首相来校

2013年5月18日(土)安倍首相が来校、学生と懇談。
成長戦略スピーチ「世界に勝てる大学改革」の中で、一つの事例としてAPUを取り上げた。



開学 ～21世紀大学改革の志～

夢から生まれた卵

1990年代の夢から生まれた卵。コンセプトの先見性。

大分県(平松守彦知事:当時)が
国際大学の設立を構想し、
有力大学に打診。

立命館の創設100周年に向けた
国際的な大学構想と理念が一致。
→ 1995年9月 三者設置構想
(立命館、大分県、別府市)

21世紀は
アジア太平洋の時代。

コンセプト
「学生の半分が留学生」
「日本語・英語 二言語」

英語教育、国際関係学
というレベルではなく、
「大学丸ごと国際化」

「3つの50」
国際学生比率50%
外国人教員比率50%
50カ国以上から迎え入れる

日英 二言語教育

日本語ができる外国人、英語ができる日本人を輩出する ⇒ 特に日本企業から高い評価

【日本語の壁】

日本語のみで
授業しているのは、
日本語ができる人
しか入学できない



日英 二言語教育

- ◆ 日本語・英語
どちらかで入学できる
- ◆ 同じ科目を日本語、英語の両方
で開講(クラスが2倍)
- ◆ 反対言語を学んで卒業する
(勉強する学生)
- ◆ 母国語やAP言語を含め、
三言語、四言語を使える学生も

【英語の限界】

日本社会や企業
にとって、
英語だけでなく、
日本語や日本文
化を学んだ
国際学生が必要



言うは易し、行うは、..

クォーター制×二言語でカリキュラム編成は複雑に(通常の4倍)、
二言語できる教員の確保は困難、教員の持ちコマ負担etc.

奨学金の確保 –経済界からの支援–

一私学と自治体が挑む国家的事業に対し、
多くの財界関係者が支援・協力



日本の大学を
選ばない理由の一つ

- 日本の高物価
- アジア経済危機
- 米・欧・豪との比較

奨学金が必要！

アドバイザリー・コミッティ

故平岩外史経団連名誉会長をはじめ、多くの方々のご支援

サポーティング・グループ企業

10年間の奨学金支援寄付を要請

40億円の 奨学金財源を 確保



2007年度安藤百福奨学金受賞者らが日清食品株式会社訪問

学生定員「原則抑制」の高等教育政策下での大学新設

1997年1月

「平成十二年度以降の高等教育の
将来構想について」(2000～2004年度)

➤抑制の例外事項を一定程度弾力化
⇒大分県も抑制の例外地域に

国際学生400名の確保見通しを
強く求められ、やはり苦勞・・・

「平成五年度以降の
高等教育の
計画的整備について」

18歳人口が急減する中、
定員増は原則抑制。

**難航する文部省との
事前相談・・・**



最大の難関 ～国際学生の確保～

国際学生400名を本当に集めることができるのか？



- キャンパスの完成予想図を片手に、教職員が海外の学校訪問等を繰り返す。
(1997夏～1999年11月、世界31カ国・地域、訪問機関件数のべ900機関)
(307機関との間で971名の学生推薦協定合意)
- 出向いても、説明会に人が集まらないことも多々。
- ソウルとジャカルタにオフィス、各国に協力者を創りながら募集活動



留学先の人気は
米・欧・豪、
日本は、、



まだ形もない。
本当に大学がで
きるのか？



はじめて国際学生が空港に着いた時、
苦勞が報われた感動で何人もの教職員が涙した、、

開学後 ～さらに苦闘の日々～

多文化って、生易しくない

混沌とした中で、 独自のキャンパスを創り上げる努力

➤ 数限りない小さな衝突

議論がまとまらない
信仰の自由、布教の禁止
ゴミ出し一つとっても生活習慣の差

➤ 授業や成績にもシビア

授業開始時刻に遅れるとクレーム
成績に納得しない

➤ 直訴文化

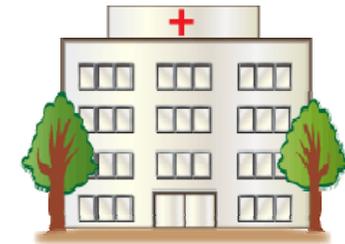
納得しないと上の人に直訴する(学長へも)



事件事故もグローバル

多様な事件事故を扱いながら、独自の規律を作ってきた

- 感染症等では緊張感
開学まもない頃、寮で結核発生。日本語ゼロの国際学生、地元病院の献身的なサポート。
- バイク無免許運転や万引き
2007年に犯罪や迷惑行為への停学基準等を統一し、件数は激減。
- 大学に馴染めない学生も
国際学生の場合には対応に特段の苦労も。



教職員組織には未成熟な一面も

大学の性格に合った教職員組織を構築するが、未成熟な一面もある。

- 教員も27カ国・地域から
 - ⇒ 様々な考え方、まとめるのは容易ではない。
- 教授会の権限を限定
 - 例) 教員人事は大学評議会のもと、人事委員会で実施。
 - ⇒ スピーディ且つダイナミックな大学運営が可能に。
 - ⇒ 一面として自律的な教育改革等に弱さも。
- 大学運営における言葉の壁
 - ⇒ 会議通訳はあるが、コミュニケーションには限界も。
- 各オフィス課長が予算執行権限・責任
 - ⇒ 機動的運営が可能に。
 - ⇒ 職員の力量的限界、教員を活かしきれていない面も。

国・地域別専任教員数

国・地域	人数
アメリカ合衆国	12
オーストラリア	9
中国	9
イギリス	6
カナダ	5
イラン	5
韓国	5
フィリピン	4
バングラディシュ	3
ドイツ	3
インドネシア	3
台湾	3
ニュージーランド	2
シンガポール	2
その他12カ国	12
日本	84
合計	167

2012年4月1日現在

財政的自立に向けた困難

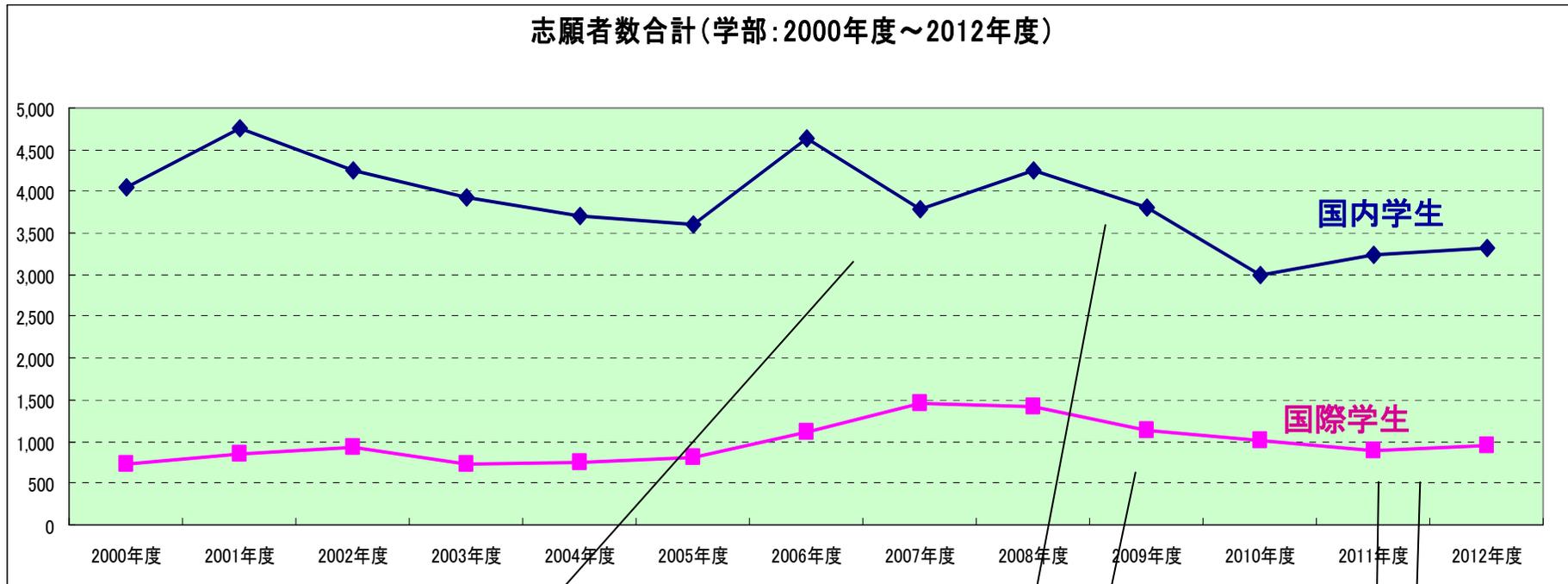
大学運営上、財政的自立が必須。あらゆる努力を続けている。

- 奨学金財源をどう確保し続けるか
(約88億円の年間予算のうち約19億円が奨学金予算)
- 2006年度に定員1.5倍化で収入増
⇒ 学生募集上は厳しさを増した
- GP事業等への挑戦
(過去14件採択)
- 学費は一般的な社会系学部の1.5倍程度
(約130万円／年)



常に立ちはだかる壁 ～学生募集～

常に苦闘の連続。アドミッションズ・オフィスが年中海外で募集活動を展開中。
国際は中韓依存脱却で厚みが出来つつある。国内は偏差値神話との戦い続く。



定員1.5倍化後の
国内苦戦

リーマンショック後、
国内外とも苦戦

原発風評被害で
国際が甚大な影響

円高で韓国が
激減傾向

中韓反日感情
の逆風

APU2020 ～次なる10年～

世界の中で

グローバル時代はまさにボーダレス。世界の学生は世界中から自分に合った大学を選ぶ時代。APUが「世界の学生に選ばれる大学」であり続けるために、強みを研ぎ澄まし、もう一段階高いステージへ。



➤ **グローバル・キャンパス**

➤ **グローバル・エデュケーション**

➤ **グローバル・キャリア**

「多文化交流キャンパス」の強みの
現状に甘んじることなく、
さらに研ぎ澄まし、磨き続ける。

グローバル・キャンパス

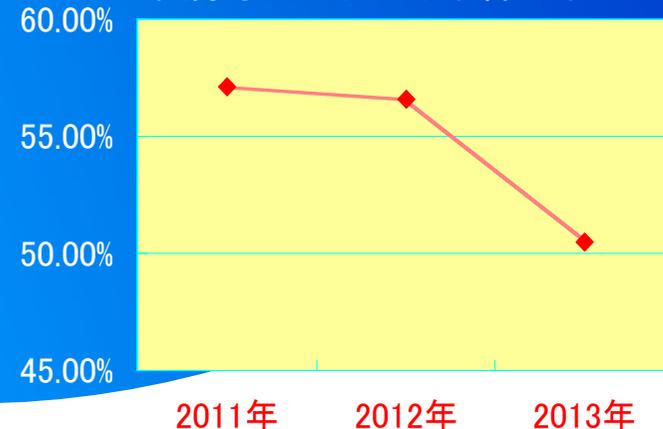
- 国のバラエティとバランスが変化
⇒ 中韓減少、ASEAN・ウズベキ等増加
⇒ 「多様性」を高次に進化させる。
- 小粒化する学生、固まる日本人
⇒ 「磨かれる仕掛け」を高次に進化させる。

多文化交流キャンパス

- 国境の壁を越えるコミュニケーション力
- 衝突や対立のストレスを克服し、互いの違いを理解し、対話を軸に、主張し協働する力

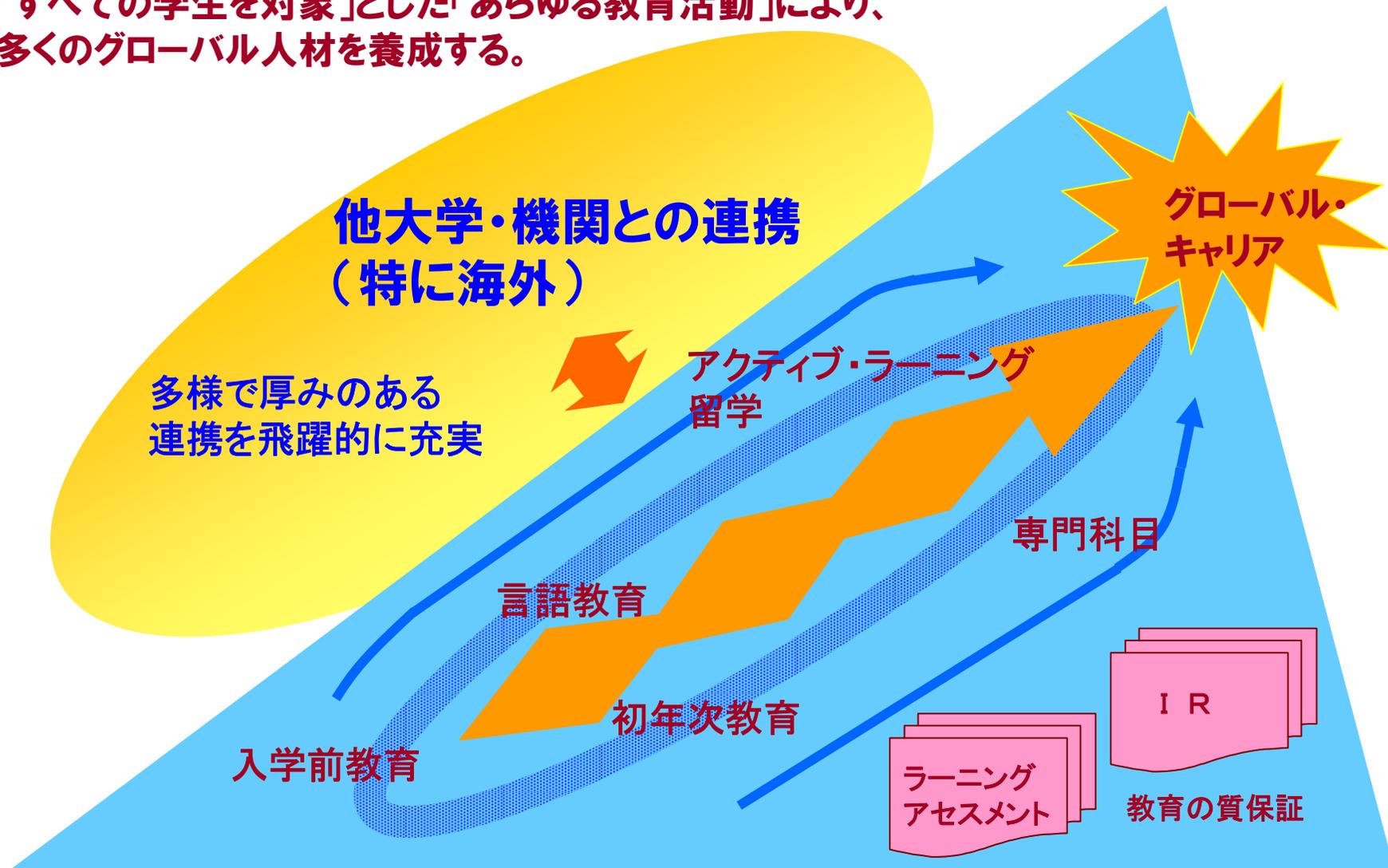
「競争に打ち勝つ」だけではない

国際学生における中韓比率



グローバル・エデュケーション

5,000人超の規模の大学、「一部のエリート」ではなく、「すべての学生を対象」とした「あらゆる教育活動」により、多くのグローバル人材を養成する。



グローバル・キャリア

「アジア太平洋の未来を創る人材」を輩出する。

⇒ 世界で活躍し評価される卒業生、グローバル・キャリアにおける実績を明示する。



起業家



各国政府
の要職

国際機関
の要職



海外グローバル企業の
ビジネスパーソン

世界の大学院進学



日本企業のビジネスパーソン



APUの挑戦は永遠に続きます

ご清聴ありがとうございました